

昨年に引き続き、秋田県では少子高齢化への対応や健康寿命の延伸、地域包括ケアの推進など、地域保健を取り巻く課題に向き合いながら、多様な施策が展開されています。また、住民一人ひとりが安心して暮らせる地域づくりに向け、関係機関との連携や地域に根ざした活動の重要性が一層高まっています。様々な分野で活躍されている皆様へ保健師職能通信をお届けします。

令和7年度 研修会・交流会のご報告

● 新任期保健師の集い ●

新任期保健師を対象に、交流を図ることで課題解決力を高め日々の保健活動に活かすため研修会を開催しました。また、日頃の悩みや活動について情報交換しました。

日時：令和8年1月20日（火）13:00～16:00

講演：テーマ「たかがコミュニケーション、されどコミュニケーション
～アサーションから動機付け面接法、CRAFTまで～」

講師：秋田大学大学院医学系研究科（保健学専攻）看護学講座教授 米山 奈奈子氏



米山先生からは、コミュニケーションの手法としてアサーティブ・トレーニングや動機づけ面接法等についてご紹介いただき、問題解決に至らなくてもつながり続けることが重要であると再認識することができました。また、支援者側が抱える課題を解決するための一助として事例検討を推奨しており、率直な意見交換により、参加者それぞれの視野が拡大したり、新たな気づきを得て、個人の成長及びチームや組織の連携強化につながることにについてご講義いただきました。

事例検討会：テーマ 「事例検討を通し、自身の課題解決力を高め今後の保健師活動に活かす。」
秋田市、八峰町よりそれぞれ母子保健の事例を提供していただき検討しました。

ファシリテーター：中村 悦子氏 保健師職能委員（秋田市）、阿部 栄子氏 看護協会副会長（仙北市）



地域保健活動の実践において困難を生じている母子の2事例について事例提供されました。ファシリテーターの進行の元、参加者同士の意見交換と米山教授のコンサルテーションを得ながら事例への支援について具体的な検討が進められました。対象の強みをふまえ、支援ニーズを明らかにしながら「あるべき姿」に向かって支援していくことの重要性を学びました。

～参加者の感想～

- 自分たちだけではなく、関係機関と情報共有し連携して進めていくことの重要性を学んだ
- 様々な方向からの支援方法を学ぶことができた。
- どのように対象のニーズを明らかにし、アプローチしていけば良いか具体的に知ることができた。
- ニーズや課題に目がいきがちであったが、今後は対象の持つ強みも意識して関わっていきたい。

●保健師職能集会●

県内在住の全保健師を対象に、情報交換を図り、保健師活動指針について学ぶ機会としました。

日時：令和7年12月10日（木）13:00～16:00

講演：テーマ「保健師活動指針と現場をつなぐ

～指針の真意を読み解いて地域課題の解決に向けよう～」

講師：秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科 教授 下園美保子 氏



下園先生からは、保健師活動指針改訂の方向性に関する最新の情報を踏まえ、活動指針をどう捉えてどう現場に落とししていくか、ロジックモデルを用いて保健師活動を「見える化」することを通じて保健師が主体性と自信を持って地域課題に立ち向かうことなどを、経験を交えながら講演いただきました。

～参加者の感想～

- 数値はただの数値ではなく、一人一人のストーリーであることを再確認できた。数字の強さ+数字だけでなく一人一人のストーリーを語れることが保健師の強み、存在意義だと感じた。
- 保健師の活動は見えにくい活動が多いが、人の生活に関わることができる大切な職種なので、自分の職場でも活動を見える化していきたい。

保健師職能委員会では、今後もスキルアップや現場の“困った”を解決できるよう、さまざまな研修会や交流会を企画し充実させていきたいと思っております。また、情報発信や相談体制の構築等も検討し、保健師のみなさんがより生き生きと働き続けられるように活動していきたいと思っております。ぜひ看護協会に入会して仲間と一緒に学び合いましょう！

令和8年度 保健師職能委員会の活動予定

- 職能委員会
- 保健師団体連絡会
- 新任保健師の集い
- 保健師職能集会
- 保健師職能通信の発行

令和7年度 保健師職能委員

委員長：熊澤 由美子
副委員長：藤田 智恵
委員：中村 悦子 池田 栄子
神馬 恵 大須賀 まみ

